

保育者養成校における入学前・初年次教育の現状に関する調査

A Comparative Study of First Year Education Practices and Pre-entrance Education Training for Future Kindergarten and Nursery School Teachers

(2010年3月31日受理)

上田 敏丈 富田 昌平
Harutomo Ueda Shohei Tomita

Key words : 初年次教育, 入学前教育, 保育者養成校

抄 録

本調査では、入学前教育・初年次教育の導入が大学・短期大学に要求されている現状において、特に保育者養成校にとってこれらの導入がどのように受け止められ実施されているのか、また、その内容について明らかにしていくことが目的であった。

任意の保育者養成校へアンケートを依頼した結果、28の養成校から回答を得た。

アンケートの結果から、調査時（2008年3月）において、入学前教育・初年次教育の導入率は高かった。これはすでに類似して行っていたオリエンテーションや活動を単位化し、統合化を行うことが平易であったことが推測される。

内容については、各養成校の状況に合わせて独自のプログラムが実践されているが、「保育者になりたいという意欲」「基本的な生活習慣・マナー」「基本的な読み書き能力」という3つが課題の内容に関するものであり、同時に養成校が入学生に対して期待するものでもある。つまり、養成校が期待するものであるからこそ、入学前教育や初年次教育の中で教えていくという表裏の関係にある。

評価としては、実施に対して肯定的評価が高い一方で、授業数の過多や運用上の問題点があげられていた。

1. はじめに

現在、大学の高等教育機関としての存在意義は、大きく問われている。例えば、大学数は、平成11年度国公立私立合計で622校であったものが、平成21年度には773校と大きく増加している（文部科学省、2009）。同時に大学への進学率も上昇している。同じく前述の調査からは、平成11年度の大学への入学者は約270万人だったのに対して、平成21年では約284.5万人と、少子化が進んでいる中、上昇している。つまり、これはいわゆるベビーブーム時期の子どもの増加に伴う大学入学者の増加ではなく、大学が受け入れている学生層の裾野が広がっていることを意味している。

このことは何を意味しているのか。それは大学を選ばなければ誰もが大学へ入れる大学全入の時代である。しかし、同時に高校生から大学生へ、あるいは大学生から社会人へとスムーズに移行できないという移行問題を大学が抱えることとなり、その接続に対する大学への役割が期待されている。2008年12月に出された中央教育審議会の「学士課程の構築に向けて（答申）」（文部科学省、2008）では、大学に期待する取り組みとして、「学習の動機付けや習慣形成に向けて、初年次教育の導入・充実を図り、学士課程全体の中で適切に位置づける」とし、今後、この領域における各大学の積極的な改善が必要とされている。

上田（2009）がまとめているように、この「初年次教

育」をめぐる用語の定義や内容の動向については、1990年代以後、様々な場面で議論され、定義されてきており、各大学が工夫を凝らしながら実践している段階である。

以上のように、現在、大学に対しては入学前から卒業後までを見通した上で、4年間の教育を行うことが求められてきている。そこでは、各大学、各学部における教育目標に基づきながら、独自のカリキュラムや教育方法が求められるであろう。

では、保育者養成校（ここでは、幼稚園教諭免許、あるいは保育士資格を出している大学・短期大学を指す）ではどうであろうか。保育者養成校は、幼稚園教諭免許状、保育士資格だけではなく、その他の免許・資格を出していることが多い。また、保育士資格については、過密な実習スケジュールの中、15回の講義を必ず行うといういわゆる15コマ問題等もあり、カリキュラムが非常に切迫している状況にある。

このような中で、各養成校は、入学前教育、初年次教育をどのように実施しているのだろうか。本研究では、保育者養成校の教員に対して、入学前教育・初年次教育の実施状況、実施内容、その意義のとらえ方などをアンケート調査によって明らかにする。

2. 方 法

本調査における対象は以下の通りである。

任意の養成校教員40名にアンケート回答を郵送で依頼し、返送してもらった。回収したのは28通であり、回収率は、70%である。

アンケート調査票は、2008年1月から2008年2月までに郵送し、3月までに返送してもらった。

アンケート項目は、所属する学部学科名、専門領域などの5項目、入学前教育の実施状況、内容などの4項目、初年次教育の実施状況、内容などの7項目で構成した(具体的な内容については、論文末の資料を参考のこと)。

3. 結果と考察

3-1. 回答者の属性について

回答してもらった28名の所属する養成校、回答者の職階、養成校で取得できる免許資格については、表1の通

りである。

所属している養成校では、私立大学が10名、公立短期大学が2名、私立短期大学が16名という結果となった。また、回答者の職階は、教授4名、准教授13名、講師6名、助教4名、無回答1名であった。各養成校で取得できる免許・資格については、幼稚園教諭1種免許状が10校、幼稚園教諭2種免許状が18校、保育士資格が27校、小学校教諭1種免許状が8校、児童厚生員資格が2校であった。その他の項目には、司書教諭、ピアヘルパー、訪問介護員、レクリエーションインストラクターなど様々な免許資格があった。これは、保育者養成校が幼稚園教諭と保育士資格という保育者養成を中心としながらも、小学校教諭や養護教諭、司書教諭など、隣接領域の多様な免許や資格をカリキュラムに組み込んでいることを表している。また、そのことは、学部学科名称が子ども学部から、児童教育学部、社会福祉学部など多岐にわたることから、保育者養成だけを行っているわけではないことが読み取れる。

表1 フェースシート項目について

所属養成校	回答者の職階
国立大学法人	0 教授 4
私立大学	10 准教授 13
公立短期大学	2 講師 6
私立短期大学	16 助教 4
合計	28 助手 0
	無回答 1
	合計 28

取得できる免許資格	
幼稚園教諭1種免許状	10
幼稚園教諭2種免許状	18
保育士資格	27
小学校教諭1種免許状	8
小学校教諭2種免許状	0
児童厚生員資格	2
その他	6

3-2. 入学前教育について

本調査では、入学前教育を「入学前オリエンテーショ

ンとも呼ばれる。特にAO入試などの試験で、早期に決まった高校生に対して、「入学するまでの学習意欲の維持・向上」と「大学生に入学する上で必要な基本的技能の修得」を行う活動」と定義づけた上で、入学前教育の実施状況、実施時期、内容、期待するレベル、実施していなければその理由について尋ねた。

入学前教育の実施状況は表2の通りである。

表2 入学前教育の実施について

実施している	21
実施していない	7

本調査では、回答数が少ないため一概に述べることはできないが、調査範囲内では多くの養成校が入学前の高校生に何らかの課題を出していることが伺える。

その実施時期の多くは、10月から3月まで幅広く広がっており、AO入試や推薦入試など、各入試の進行状況に合わせて、適宜、課題を出しているようである。特にAO入試、推薦入試の合格者に対して、課題を出しているが、その方法・内容については、各養成校によって様々な工夫がなされている。

では、どのような内容を入学前教育として行っているのだろうか。

入学前教育として、各養成校において行われている課題は、表3の通りである。学科の目的や教科目に関連した指定図書を提示し、それを要約する、あるいは感想文を書くというものが最も多いものであった。また、保育・幼児教育関連の新聞記事のスクラップしたり、その要約を行う課題、漢字ドリルや日本語のドリルを行うものなどがある。一方で、来学してもらい、ピアノ指導を行うことや面接を行うといった内容も見られた。

表3 入学前教育課題内容（延べ数）

課 題 内 容	
読書（感想文含む）	6
実技（ピアノ、絵画）	5
新聞記事スクラップ（要約含む）	3
体験学習（講義含む）	2
ドリルなど（漢字、日本語など）	2
面談	1

では、次に入学前教育を行っていないと回答した人に「なぜしていないのか」を尋ねたところ、在学生への対応に追われて「入学前には手がまわらない」という実務レベルにおける問題がある一方、「試みたことがあるが効果があまりみられなかった」や「課題になっていない」といった入学前教育の意義や実施の目的の不明瞭さという問題が挙げられている。

入学前教育を実施しているにしろ、していないにしろ、入学生に対して、入学段階でどのようなことを養成校の教員は学生に求めているのだろうか。

自由記述で回答してもらったものを要素別に分類すると次のようになる。得られた回答から、大きくカテゴリとして、保育者になりたい、大学で学びたいという意欲、生活習慣や感受性といった態度、読み書きや学力という技能という3つに設定した。

表4 入学段階における期待

カテゴリー	内 容
意欲	保育者になりたいという気持 大学で学ぶための意志
態度	疑問を持つ態度 感受性 自立した生活習慣
技能	基本的な読み書き 高卒程度の基礎学力 電話などのマナー

入学段階における期待である以上、ある程度、予想されていたものではあるが、専門的な領域よりも、卒業後の進路を目標にしたモチベーションの高さや学業への意欲が多くあげられていた。また、基本的な読み書き、マナーといった必要最低限と思われる技能も、要求されているものである。

3-3. 初年次教育について

初年次教育が現在の大学・短期大学において要求されているものであることは、様々な文献・資料から散見される（例えば、上田、2009参考）。では、実際に養成校において、どの程度、初年次教育は実施されているのだろうか。表5は初年次教育の実施数である。

表5 初年次教育の実施

実施している	17
実施していない	10
無回答	1

上記のように半数以上の養成校において、初年次教育、もしくはそれに替わる科目は実施されている。科目名としては、「基礎ゼミナール」や「入門セミナー」「専門基礎」と、これから始まる専門教育への入り口を意識させるようなものが大勢を占めていた。

内容として自由記述で回答してもらったものには、教員と学生との話し合いやリメディアル教育、ボランティア、見学など多種多様なものが組み込まれていた。

これらは従来、カリキュラムの外で各養成校で独自に行われていたものであらうと思われる。しかし、近年の初年次教育の推進によって、単位化を行い、正規のカリキュラムの中に組み込まれてきたことが推測される。表6からもわかるように、多くの養成校で、初年次教育を単位化している。

表6 初年次教育の単位化

単位化している	13
単位化していない	1
独立した科目ではない	3

さらに具体的な内容として、選択項目を表7のように8項目について実施しているかどうかを尋ねた。「図書館の利用の仕方」「レポートの書き方」「大学生としての心構え・学習態度の講義」「保育者としての心構え・学習態度の講義」は、ほとんどすべての実施している養成校で行われていた。また、それ以外の科目も半数以上が行っている、という結果になった。

その他にあげられた項目としては、ノートの取り方、大学祭の準備、SPI対策といったものがあげられ、各養成校の現状に応じて行われているといえよう。

表7 初年次教育の内容

図書館の利用の仕方	16
レポートの書き方	15
大学生としての心構え・学習態度	16
保育者としての心構え・学習態度	16
ディスカッション	12
先輩との交流会	10
マナー講座	12
その他	7

つぎに、初年次教育の実施によって学生の変化が感じられたかどうかを自由記述で答えてもらった。実際に実施しているほとんどでは「感じられる」「一部感じられる」と回答した人が多い。例えば、養成校Aでは、「毎週ゼミで顔をあわせるため、休みがちな学生の情報や履修状況を把握しやすい。FDアンケート調査から学生の意欲が向上している」と述べられている。山田(2005)が報告しているように、アメリカにおいてFirst Year Seminarが広まっていった背景には、学生のリテンション率(継続率:次学年への進学する率のこと)の悪化を抑制するというものがある。養成校Aでの報告は、日本における初年次教育においても同様の変化がみられるといえよう。全体的に肯定的に捉えている意見が多いが、一方で実際の運用の中で問題を抱えている養成校も見受けられる。養成校Bでは「初年次教育のために設定された科目であるが、現在は大学生での催し物の準備がメインになっており、目的が達成されにくい状況」であると、養成校Cでは「単位化した科目が機能していない。(略)その後の学習へのつながりを勘案した授業内容として十分検討されていない」という問題点を指摘している。

初年次教育においては、その性質上、学科全体、大学全体を通して行うものであるため、特に教員間の連携や共通理解、モチベーションの違いが問題として指摘されているが(上田, 2009)、保育者養成校を対象とした本調査の結果でも、同様な傾向が現れた。

これらの初年次教育を通して、養成校の教員は、学生にどのような変化を期待しているのか。自由記述で回答してもらったところ、実施の時期が近いせいか、入学前教育と同じ傾向の回答となった。それは大きく分けて、

①保育者への目的意識・意欲, ②学生, 社会人としてのマナーや心構え, ③文章力, 表現力など基礎学力であった。

では, 初年次教育を実施していない養成校は, なぜ行っていないのかを自由記述で回答してもらった。その結果, 実施していない10校のうち, 2校は次年度より実施予定の回答であった。一方, 実施していない理由としては, 「大学全体で取り組むよりも, 各教員が担当授業の中で指導している」と答えている4校であり, 科目として統一できないのは「カリキュラム上, 授業科目を増やせない」ことによる, としている。

つまり, 実施していない養成校においても, 初年次教育に相当する内容については, 入学後のオリエンテーションや各講義の中で触れており, 個別対応で行っているといえよう。

また, 初年次教育を実施していない養成校にも, 入学段階でどのようなことが身につけてほしいのかを自由回答で答えてもらったところ, 実施している養成校と同じく, 目的意識・意欲, マナーなどの態度, 基本的な学力という回答であった。

4. 総合考察

本調査では, 入学前教育・初年次教育の導入が大学・短期大学に要求されている現状において, 特に保育者養成校にとってこれらの導入がどのように受け止められ実施されているのか, また, その内容について明らかにしていくことが目的であった。

任意の保育者養成校へアンケートを依頼した結果, 28の養成校から回答を得た。

アンケートの結果から, 調査時(2008年3月)において, 入学前教育・初年次教育の導入率は高かった。これはすでに類似して行っていたオリエンテーションや活動を単位化し, 統合化を行うことが平易であったことが推測される。

内容については, 各養成校の状況に合わせて独自のプログラムが実践されているが, 「保育者になりたいという意欲」「基本的な生活習慣・マナー」「基本的な読み書き能力」という3つが課題の内容に関するものであり, 同時に養成校が入学生に対して期待するものでもある。

つまり, 養成校が期待するものであるからこそ, 入学前教育や初年次教育の中で教えていくという表裏の関係にある。

評価としては, 実施に対して肯定的評価が高い一方で, 授業数の過多や運用上の問題点があげられていた。

以上のことから, 本調査から得られる特徴として, 以下の2点がある。

第一に, 入学生に対する保育者養成校の抱える共通性である。入学前教育・初年次教育では, どのような内容を, 何を目的にして, という点で教員間の共通理解が得られにくい(山田, 2007)。しかし, 保育者養成校では, 教員間の意識については, 例外があるものの, それほど目立った問題ではなかった。つまり, 入学前教育・初年次教育を通しての入学生に対する期待は, どの養成校でも類似点が多く, 共通性が高いといえよう。

第二に, 上記のことと関連するが, 保育者養成校という軸で見たとき, 入学前教育・初年次教育のプログラムについては, 現在様々な形で出版されている初年次教育関連の教科書とは異なる独自のプログラムの作成が可能であると考えられる。つまり, 初年次教育の基本的考え方であるアクティブ・ラーニングを中心としながら, 本調査で明らかにされた新入生への期待を目標としたプログラムである。これは今後, 詳細に検討していく必要があろう。

しかしながら, 一方でこの状況はある問題をはらんでいるといえよう。つまり, 保育者養成校が新入生に対して要求しているものが明瞭であればあるほど, それは従来の初年次教育におけるものとのずれが生じざるをえない。それは保育者の養成という視点に立つと, 問題ないのであるが, いわゆる青年期教育・高等教育の視点からでは, 疑問符が残る。保育者養成校の養成カリキュラムの中で, 保育者へのアイデンティティを獲得できなかった学生に対して, 養成校はどのようなケアをしていくのか。保育者養成校として, 保育者にならないことを選択した学生に対してどのようなキャリア形成を目指していくのかというキャリア教育が重要になってくるといえよう。

また, さらにいうならば, 養成校が求める「保育者になりたいという意欲」「基本的な生活習慣・マナー」「基本的な読み書き能力」が将来の専門性の高い保育者養成

へとつながるのであるのか、もう一度、再考する必要があるのかもしれない。

5. 終わりに

本調査では、保育者養成校における入学前教育・初年次教育の現状と課題を明らかにすることを目的とした。調査数が28校と十分な数ではなかったが、しかし、その一端は明らかにすることができたといえよう。

今後、保育者養成校の入学前教育・初年次教育において、どのような問題があり、どのような独自のプログラムが必要であるか検討していかなければならない。

6. 引用・参考文献

- 濱名篤 2002 「高等教育のユニバーサル化と一年次教育の国際的な動向から考える高大連携」『月刊高等教育35(4)』 pp. 45-49
- 濱名篤 2006 「中央教育審議会大学分科会大学教育部会初年次教育の現状と課題 ～“移行”問題を中心に～」(文部科学省HPより)
- 濱名篤・川嶋太津夫編著 2006 『初年次教育 歴史・理論・実践と世界の動向』 丸善
- 永田奈央美・高橋正憲・香山瑞恵・魚田勝臣 2005 「問題解決型学習を指向した導入教育モデルの構築と実施」『情報科学研究26』 pp. 71-89
- 文部科学省 2009 『学校基本調査～平成21年度』 文部科学省
- 上田敏丈 2009 「初年次教育の動向～保育者養成校での実施に向けて～」『中国学園紀要 第8号』 pp. 101-108
- 山田剛史 2007 「学生の視点を踏まえた初年次教育の展開」『島根大学生涯学習教育研究センター研究紀要5号』 pp. 15-29
- 山田礼子 2005 『一年次(導入)教育の日米比較』 東信堂

謝 辞

本調査では、保育者養成校に勤務する関係者の皆様の協力を得て行うことができました。この場を借りてお礼申し上げます。ご協力、ありがとうございました。

参考資料：アンケート調査票

以下の質問にさしつかえのない範囲で、できるだけお答えください。お答えは該当する項目の番号に○印を付けていただくか、空欄がある場合には（ ）内にご記入をお願いします。

F 1. 現在、勤務している大学種別を教えてください。

- 1 国立大学法人 2 私立大学 3 公立短期大学 4 私立短期大学

F 2. 現在、所属している学部学科名を教えてください。

学部名 ()

学科名 ()

F 3. 現在の職階を教えてください。

- 1 教授 2 准教授 3 講師 4 助教 5 助手

F 4. あなたの専門領域を教えてください (例：教育学など)。

専門領域 ()

F 5. 所属する学部・学科で学生が取得できる免許・資格に○をつけてください。(複数回答可)

- 1 幼稚園教諭1種免許状 2 幼稚園教諭2種免許状 3 保育士資格
4 小学校教諭1種免許状 5 小学校教諭2種免許状 6 児童厚生員資格
7 その他 ()

次頁以降、入学前教育及び初年次教育についてお伺いいたします。なお、ここでいうそれぞれの用語の意味は次のように定義しています。

入学前教育：「入学前オリエンテーション」とも呼ばれます。特にAO入試などの試験で、早期に決まった高校生に対して、「入学するまでの学習意欲の維持・向上」と「大学生に入学する上で必要な基本的技能の修得」を行う活動です。

初年次教育：「導入教育」とも呼ばれます。受け身で学習する「生徒」を、積極的に自ら学ぶ存在である「学生」へと移行させるための教育です。高校まででは習っていない、しかし大学では「常識」として扱われている学習技能・学習態度・動機づけについて体系的に学ばせることで、自立的な学習ができるよう支援し、大学一年生を速かに大学生生活へ適応させることを目的としています。

[入学前教育について]

Q 1. 貴学では入学の決まった学生に対して、入学する前に何らかの教育を行っていますか？

- 1 している (Q 2へ)
- 2 していない (Q 3へ)

Q 2. Q 1で「している」を選んだ方にお伺いします。貴学ではどのようなことを入学前教育として行っていますか？実施時期とあわせてお答えください。(Q 4へ)

内容 (時期 月頃)

Q 3. Q 1で「していない」を選んだ方にお伺いします。「していない」理由や困難な点について教えてください。(Q 4へ)

Q 4. 入学の決まった高校生に、入学までにどれくらいのことができているとお考えですか？

[初年次教育について]

Q 5. 貴学では、1年生に対して初年次教育を行っていますか？

- 1 している (Q6～Q10へ)
- 2 していない (Q11へ)

Q 6. Q 5で「している」を選んだ方にお伺いします。貴学ではどのようなことを初年次教育として行っていますか？

Q 7. 貴学では初年次教育を独立した科目として単位化して行っていますか？また、その科目名はどのような名称ですか？

- 1 単位化している 科目名 ()
- 2 単位化していない 科目名 ()
- 3 独立した科目として扱っていない

Q 8. 貴学で初年次教育として行っているものを教えてください

- | | | |
|------------------------|------|-------|
| ① 図書館の利用の仕方 | している | していない |
| ② レポートの書き方 | している | していない |
| ③ 大学生としての心構え・学習態度などの講義 | している | していない |
| ④ 保育者としての心構え・学習態度などの講義 | している | していない |
| ⑤ ディスカッション | している | していない |
| ⑥ 先輩との交流会 | している | していない |
| ⑦ マナー講座 | している | していない |
| ⑧ その他 | | |
| 内容 () | | |

Q 9. 初年次教育の実施によって学生の学習態度や意欲に変化が感じられましたか？

Q 10. 保育者養成校の入学生として、初年次教育を通して何を身につけて欲しいと考えていますか？

質問は以上で終わりです。ご協力ありがとうございました。

集計結果は後日送付させていただきます。

本頁終わりのお願いをご一読ください。

Q 11. Q5で「していない」を選んだ方にお伺いします。「していない」理由や困難な点について教えてください。

Q 11. 保育者養成校の入学生として、適切な大学生活を送る上でどのようなことが身につけて欲しいと考えていますか？

質問は以上で終わりです。ご協力ありがとうございました。

集計結果は後日送付させていただきます。